

研究発表会では、2年1組、3年1組、6年1組3本の公開授業、分科会での協議など、本当にお疲れ様でした。各ブロックで、単元構想から先行授業、模擬授業など進めていただき、ありがとうございました。

子どもたちは、どんな言葉で表現すればよいか、じっくり言葉を選んだり友だちと話し合ったりしながら、考えを広げ鉛筆を走らせ、学習に取り組んでいたと思います。

それぞれの公開授業の様子と研究協議で出されたご意見などをお知らせします。

単元名 100倍楽しく遊んでもらおう！ わたしのおもちゃ取扱説明書 **全7時間**
教材名 「あそび方をせつ明しよう」 **公開授業：2年1組 小島 教諭**
身に付けさせたい資質・能力： あそび方を説明するために、語と語や文と文との続き方に注意し、内容のまとまりが分かるように書く力

実際におもちゃを動かして確認している様子



机の上には、おもちゃの写真、説明メモを置いて書き進めます



ホールで動かしたおもちゃの動きを書き加えて……

授業について：授業者より

目標達成に向けて

『メモでは遊び方が伝わらない』という困り感(課題)から、『遊び方を詳しくする言葉をつけ足して文章を書く』というめあてを立てた。そのために、「どこに」「何を」など、どんな言葉が足りないのか、何をつけ足すと分かりやすくなるのか、子どもたちに気付かせて学習を進めた。

本気になる課題

生活科の学習とリンクして「実際に作った大切なおもちゃを1年生に貸して、遊んでもらう」ことを設定した。自分で作ったおもちゃだからこそ、自分事として書く、言葉にこだわって説明する文章を書くことへの意欲に結び付けた。その場で説明しながら伝えるのではなく、書くことのみで遊び方を伝えるという切実感から、本気になる課題へ結び付けた。

言葉による見方・考え方

1年生にも分かるような詳しい言葉や分かりやすい言葉を選んで書くことができるようにしたいと思った。学級の実態から、実際におもちゃを動かす場(ホール)、文章を書く場(教室)と分け、机の上にはイメージしやすいように写真を置くこととした。

分科会では、参観の視点(3点)に沿って協議を行っていただきました。(抜粋)

1. 本時の目標は達成できたか。

- 本時は、何ができればゴールなのか、子どもたちが明確にもつことができていた。
- めあてに何度も子どもたちが立ち返っていた。
- 説明の良くなったところ、付け加えたところを明確に示しており、とりかかりやすかった。

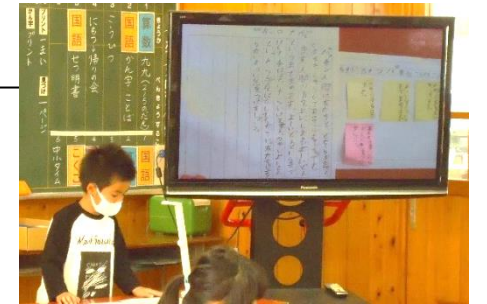
2. 児童が本気になる課題の工夫があったか。

- 書いた文章を書画カメラで共有して確かめることで、子どもたちが分かるようにしていた。
- 「おもちゃを貸す、説明書だけで100倍楽しんでもらう」という単元のゴールが本気になることにつながり、1時間1時間を真剣に取り組んでいたその軌跡を本時で見ることができた。

3. 「言葉による見方・考え方」を働かせたための手立てがあったか。

- 何を付け加えたらよいか分からなくて手が止まる⇒1回おもちゃを触る⇒書くことが分かる書き加えたことを実際に動かして確かめたことが効果的だった。
- ▼付け足されている部分が書画カメラでは分かりにくく、清書でないなら、赤ペンなどで印をしてもよいのではないか。

その他○おもちゃの写真がUDの視点があってよかった。



助言者：小松指導主事より(本単元・本時の学びのポイント)

① 3段階構成の展開

- ① 形成(まず書いてみて、自分なりの考えや困り感を持つ)
 - ② 整理(みんなで言葉の働きや良さに気づき、解決策を考える)
 - ③ 再構築(考えたことを使って、より自分らしい表現をつくる)
- 「上手くできなくてもよいので書いてみる」ことが大切。書く活動を授業の最後に設定すると書けない子どもが出てくる。本時では、言語活動を充実させ、主体的に学ぶ(書く)子どもの姿が見られた。

② 本気になる課題

めあてを設定するまでの手続きが良かった。本時では、子どもたちの言葉と先生の丁寧なやり取りの中からめあてを設定していた。子どもと学習の目的や相手を確認し、まだ足りない言葉、十分でない部分は何か、それをどうやって解決するかといった「子どもの問い」をめあてにしたので、本気で学べた。

③ 「言葉による見方・考え方」

振り返りで『この言葉によって伝わりやすくなった』という言葉の働きに、子どもたちの視点が向いていた。『押す』だけでなく、言葉を付け足して『思い切り押す』のように、その言葉(見方)を使ったら、なぜ良いの(考え方)という気付きを全体で共有すると、もっと言葉にこだわり、学びも深まるだろう。

ホールでおもちゃの動きを確かめ、それを言葉で表現する場所を教室に設定することで、子どもたちは行き来しながら、自分のおもちゃの取扱説明書を生き生きと書き進めていました。

「楽しく遊べるコツ」「1年生が遊びたいって言っているよ」など、前向きにさせる言葉が温かく、いつも明るい口調で話される小島先生。子どもの文章をよく見取り、取り上げて全体に広げているのは、こんな言葉を使ってほしい、言葉に気付いてほしいと、子どもの姿や具体的な言葉をイメージしているからだと思います。

先日、1年生が取扱説明書を読みながら、借りたおもちゃで遊んでいました。説明書には、「緑色のレバーとオレンジ色のレバーをかた手で持ちます。次にオレンジ色のレバーを引きます。」「みんなでなかよく楽しみましょう。」などと書かれていて、1年生は100倍!!楽しく笑顔で遊んでいたようです。



取扱説明書を読んでいる1年生